

「世界農業遺産認定記念式典」に参加しました



▲認定式典に参加した奥出雲地域の皆さん

2月5日、世界農業遺産認定記念式典が農林水産省(東京)において開催され、奥出雲町農業遺産推進協議会から18名が出席し、会場に約100名が集まりました。世界農業遺産の認定地域は日本国内で17地域、昨年10月に国連食糧農業機関(FAO)本部で日本から新たに4地域に認定証が授与され、この度、政府主催の認定記念式典が開催されました。

山下農林水産副大臣から「認定は新たなスタート、地域の価値を見直し共有することにより豊かなものへと発展させる礎となる」とあいさつがありました。

また、FAOのマウリツィオ・マルティーナ事務局長から「世界農業遺産プログラム



▲挨拶をする糸原町長

ム(GIAHS)は、生きた農業システムとして、地域コミュニティによって守り進化する動的な保全をすすめる認定制度で、今後、世界的にも関心が高まると祝辞がありました。

その後、各認定地域代表者から挨拶があり、奥出雲町農業遺産推進協議会会長の糸原町長は、たたら製鉄を起源とする奥出雲の資源循環型の農林畜産システムについて紹介し、「仁多米、奥出雲和牛、特用林産物をはじめとする農と食、文化的景観や観光資源を結び付けるとともに、認定を活かした取組、新たな魅力づくり、地域づくりにつなげてまいりたい」と述べました。

今回、世界農業遺産認定の喜びを共有し、各認定地域の特徴や取組について理解を深めることができ、世界に認められた農業遺産を自信や誇りにして、今後の取組やこれからの展望を考える貴重な機会となりました。



▲奥出雲町の特産品をPRする特設ブースの様子

農業を未来につなげる座談会

「奥出雲の農業の「これから」を語り合う」を開催

2月20日、雲州そば伝産産業会館で「農業を未来につなげる座談会」奥出雲の農業の「これから」を語り合う」を開催しました。

この座談会は、燃料や資材価格の高騰、人口減少など、農業を取り巻く環境が大きく変化する中で、これからの「奥出雲の農業」について共に考えることを目的として実施したものです。当日は、町内外から農業者や農業に関心のある方など約30名が参加されました。

前半では、環境に配慮した農業の普及に取り組み株式会社坂ノ途中から、これからの農業を考える上でのヒントの紹介がありました。後半は、田部農園の田部義美さん、イターンで米作りに取り組まれている石田航太郎さんによるクロストーク、参加者によるグループワークを行いました。グループワークでは、参加者それぞれの立場から奥出雲町の未来の農業について活発な意見交換が行われ、農作業の苦勞や喜び、工夫を共有する貴重な機会となりました。



石田 航太郎さんによる取り組み紹介の様子▲

▼株式会社坂ノ途中 小松 光さん



▲田部農園 田部義美さん



Jクレジットを活用したカーボンニュートラル等に関する連携協定 締結

奥出雲町と三機工業株式会社、株式会社バイウィルとの間で、「Jクレジットを活用したカーボンニュートラル等に関する連携協定」を締結し、締結式が2月6日に役場仁多庁舎で行われました。



▲三機工業株式会社 石田博一代表取締役社長(左)、株式会社バイウィル 下村雄一郎 代表取締役(右)

町では、令和5年6月の脱炭素宣言を契機に、森林由来のJクレジットの発行に取り組みはじめ、国の認証審査を経て、令和8年1月からクレジットの販売を開始しました。

この協定は、町が管理する森林から創出されたクレジットを、バイウィルを通じて三機工業に販売し、8年間で1万6千トンを購入いただき、その収益により町内の林業振興や環境保全を図り、脱炭素の取り組みを推進することを目的としています。

また、クレジットの購入とは別に、三機工業独自の工コ貢献ポイント制度を活用した町内の森林整備への助成や、社員による環境保全活動等に取り組んでいただくことになりました。

今回の連携協定により、一層林業振興に取り組み、環境保全を図ることにより脱炭素社会の実現を目指していきます。

西の横綱、仁多米のPR大使に 島根県出身、ロシア人佐藤さんが就任!



全国で、西の横綱として高い評価を受けるブランド米「仁多米」のさらなる認知度向上と魅力発信を目的に、出雲市出身の料理系大食いユーチューバー、ロシア人佐藤さんが「奥出雲仁多米PR大使」に就任しました。

3月4日、奥出雲町役場仁多庁舎で任命式が行われ、タスキや名刺、仁多米1俵の授与に続き、就任記念の特製仁多米おにぎりを味わいながら糸原町長と奥出雲町商工会青年部八澤豊幸部長とのトークセッションを実施。仁多米の魅力や生産者への思い、今後の活動への抱負などが語られました。ロシア人佐藤さんは「大好きな仁多米をたくさんの方に食べていただけるように情報を届けて、奥出雲に来て仁多米を楽しんでもらえるように、どんどん魅力を発信していきます」と力強くコメントされました。

